

3. 業務の手順

3.1 アップロードデータの作成

CATP-Auto を実行する際には、まず始めにアップロードファイルを作成しておく必要があります。

アップロードファイルは、エディタやワープロソフトを使ってデータを作成するほか、市販の表計算・データベースソフトのタブ区切り出力機能を利用したり、CATP-Auto に付属する簡易入力エディタを利用するなど、利用者の環境に合わせたさまざまな方法で作成することができます。

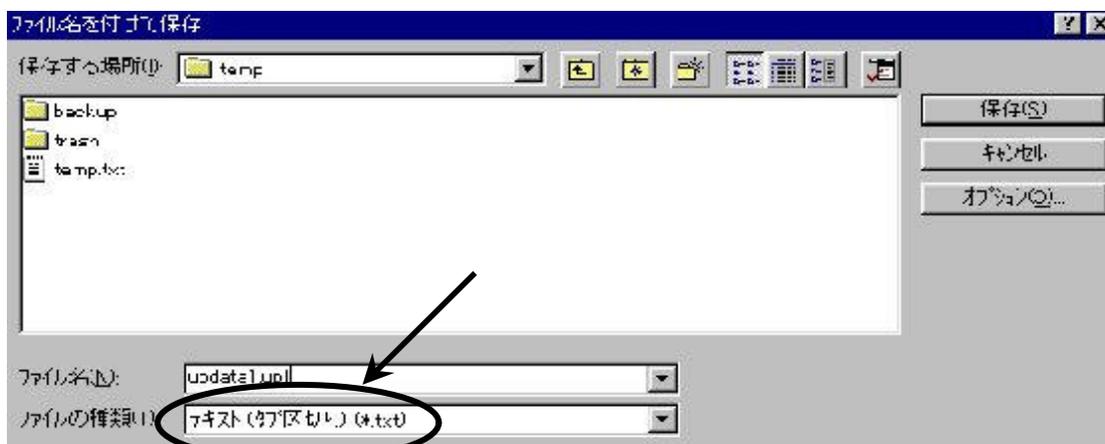
(1) 外部ツールを利用したデータ作成

アップロードファイルは、データをタブ区切りでファイル出力する機能がある市販のアプリケーションソフトウェアを使って作成することができます。

例えば、Microsoft Excel を利用してアップロードファイルを作成する場合、Excel の列毎に、以下のようにアップロードデータを入力します。

	A	B	C	D
1	ISBN0007905790	LOC=書庫	CLN=460:02:M	RGTN=7305171070
2	ISBN0004074155	LOC=開架	CLN=484:3:M,2	RGTN=7305190290
3	ISBN0683041088	LOC=参考	CLN=465:8:B,1	RGTN=7305180790
4				

「ファイル」メニューから、「ファイル名を付けて保存」を選択し、「ファイルの種類」を「テキスト(タブ区切り)(*.txt)」にして保存します。



これで、Excel で入力した各行のデータは、列ごとにタブで区切られた、アップロードファイルのフォーマットで保存されます。その他、タブ区切り出力機能のあるデータベースソフトなどを使う場合も、同様の手順でアップロードファイルを作成できます。

なお、オプション設定（ファイル設定）画面で指定したディレクトリ以外のディレクトリに、オプションで指定した以外の拡張子でファイルを保存した場合は、後でファイルを移動し、拡張子を変更する必要があります。

(2) CATP-Auto の簡易入力エディタによるデータ作成

エディタや市販のソフトウェアが利用できない場合でも、CATP-Auto にはアップロードファイル作成のための簡易入力エディタが用意されていますので、これを利用して新規にアップロードファイルを作成したり、すでに作成したアップロードファイルを読み込んで編集したりすることができます。ただし、簡易入力エディタで読み込めるアップロードファイルは簡易入力エディタで作成した形式、もしくはそれに準ずる形式のみです。他のエディタで作成したアップロードファイルは読み込めない場合があります。

簡易入力エディタの「タイトル」フィールドと「著者」フィールドは、それぞれ総合目録データベースの TITLE_、AUTH_ に対応していますので、従来の目録システム検索画面の TITLE、AUTH フィールドと同様の形式で検索キーを入力することができます。

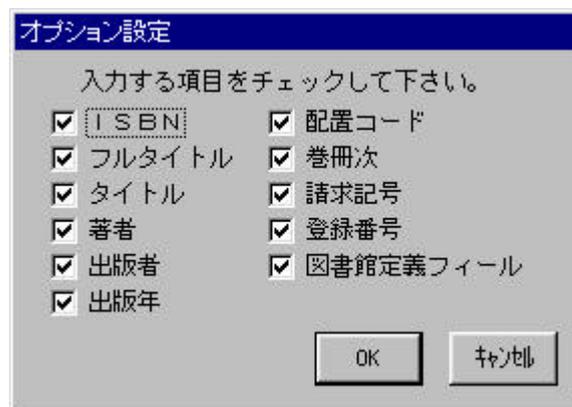
データ入力の際には、入力画面の上方にあるツール・バーや Ctrl+Ins（レコードの新規追加）、Ctrl+Del（レコードの削除）、Ctrl+（前へ移動）、Ctrl+（後へ移動）といったキーボード・ショートカットを利用することができます。簡易入力エディタの操作の詳細は、簡易入力エディタのヘルプを参照してください。

図 3.1(1) 簡易入力エディタ入力画面

The screenshot shows the 'CatpEdit' application window. The title bar reads '無題 - CatpEdit'. The menu bar includes 'ファイル(F)', '編集(E)', '表示(V)', 'レコード(R)', and 'ヘルプ(H)'. The toolbar contains icons for file operations and navigation. The main form is divided into two sections: '検索キー' (Search Key) and '登録データ' (Registration Data). The '検索キー' section includes fields for 'ISBN' (4886590144), 'フルタイトル' (Full Title), 'タイトル' (Title), '著者' (Author), '出版者' (Publisher), and '出版年' (Year). The '登録データ' section includes fields for '配置コード' (Shelf Code) (開架), '巻冊次' (Volume/Issue), '請求記号' (Request Number) (017.71), '登録番号' (Registration Number) (B1397842), and '図書館定義フィールド' (Library Definition Field). At the bottom, a status bar indicates 'ヘルプを表示するには [F1] を押してください。' (Press [F1] to display help.) and shows '0001/0001' and 'NUM'.

簡易エディタで同じ項目のデータだけを連続して入力する場合は、入力項目以外の項目を入力不可とすることが出来ます。メニューバーの「表示」「オプション」で下の画面が表示されますので、入力項目以外の不要な項目はチェックをはずしてください。

図 3.1(2) 簡易入力エディタのオプション設定画面



簡易入力エディタでは、よく使われる検索キーとアップロードデータの入力域が用意されていますが、全ての検索キー・アップロードデータに対応した入力域が用意されているわけではありません。簡易入力エディタで入力できる以外のデータを作成する必要がある場合は、その他の入力ツールをご利用ください。

(3) その他の方法によるデータ作成

アップロードファイルの作成手段としては、上記(1)、(2)の方法の他にも、既存のデータをプログラムで一括処理してファイルを作成する方法、業者にアップロードファイルの入力文法に従って、ファイル作成を委託する方法、Microsoft Word などのワープロやエディタで作成する方法など、様々なやり方が考えられます。各図書館の事情に応じて、最も適切な方法を選択してください。

3.2 アップロードファイルの入力規則

アップロードファイルのレコードは、検索データ、登録データ、動作指示コマンドから構成されます。各構成要素はタブによって区切られ、任意の回数繰り返すことができます。なお、各構成要素の区切りにスペース（空白）は使用できませんので、ご注意ください。1レコードの終りは改行(CRLF)コードで、行の先頭が/* ...で始まる行は、行全体がコメントと見なされます。また、各行の最後にタブと/*を入れてコメントを書くこともできます。

書誌ルートの所蔵新規登録の際のアップロードファイルは、下の例のようになります。

〔アップロードファイルの例（書誌ルートの所蔵新規登録）〕

```
ISBN:0387905790 ' LOC==書庫 ' CLN=468:82:M ' RGTN=7305171370 ¶
ISBN:9004074155 ' CLN=484:3:M,2 ' RGTN=7305190290 ¶
ISBN:0683041088 ' VOL=Vol.1 ' CLN=465:8:B,1 ' RGTN=7305180790 ¶
FTITLE:日本陸棚周辺の貝類 ' LOC=開架 ' VOL=腹足綱篇 ' CLN=484:6:N ' RGTN=7305078730 ¶
FTITLE:沿岸環境調査マニュアル ' LOC=書庫 ' VOL=底質・生物篇 ' CLN=453:1907:E
' RGTN=7305075690 ¶
FTITLE:原色世界貝類図鑑 ' YEAR:1966 ' LOC==開架 ' VOL=2 ' CLN=484:038:H,2
' RGTN=7305041740 ¶
FTITLE:plant biochemistry AUTH:Bonner ' CLN=471:4:B ' RGTN=7305072330 ¶
FTITLE:風による海流と対流の理論 ' CLN=452:1208:K,1 ' RGTN=7305039770 ¶
ISBN:0126240051 ' VOL=vol.5 ' CLN=464:M,5 ' RGTN=7305173060 ' /*ここにコメントが書けま
```

' タブ記号
¶ 改行記号

(1) 検索データ

検索データは、検索フィールド名、区切り記号、検索、照合キーによって構成されます。

(例1) FTITLEKEY:吾輩は猫である

区切り記号には、:(コロン)、:(ダブルコロン)、;(セミコロン)、:(ダブルセミコロン)の4種類があり、それぞれ以下の意味になります。

	記号	記号に続く文字列	記号の意味
1	:	検索キー	指定された検索キーで search 検索を行う
2	::	既定値とする検索キー	以降、この検索キーが指定されたものとして扱われる
3	;	照合キー	指定された照合キーで scan 検索を行う
4	::;	既定値とする照合キー	以降、この照合キーが指定されたものとして扱われる

(例2) FTITLEKEY:吾輩は猫である AUTHKEY::夏目漱石
FTITLEKEY:三四郎

この例では、2番目のレコードで AUTHKEY を指定しなくても、「夏目漱石」を検索キーに指定したものとして検索が行われます。

検索キーは、新目録所在情報データベースのインデックスフィールドの search を実行し、照合キーはインデックス化されていないフィールドを含めて、scan による二次検索を実行します。従って、フルタイトルキー等の検索キーだけでは一意に同定できない書誌レコードの場合、AUTH の他にも ED(版に関する事項)のようなフィールドを照合キーとして利用することにより、検索のヒット率を高めることができます。

(例 3) FTITLEKEY:吾輩は猫である AUTHKEY::夏目漱石 ED;改訂版

(2) 登録データ

登録データは、登録フィールド名、区切り記号、所蔵データによって構成されます。区切り記号には、=(イコール)、==(ダブルイコール)があり、それぞれ以下の意味になります。

	記号	記号に続く文字列	記号の意味
1	=	登録データ	指定された登録データを所蔵データとして登録する
2	==	登録データの既定値	以降、このデータが指定されたものとして扱われる

なお、フィールドを削除したい時には、登録データに@のみを指定してください。

(例 4) RGTN=8329401 LOC=図書 CLN=@

(3) 動作指示コマンド

所蔵レコードを削除したり、一括削除や一括更新のために総合目録データベースの所蔵レコードを取り込む場合は、行の先頭で動作指示コマンドを指示します。動作指示コマンドを特に指示しない場合は、所蔵レコードの登録更新処理になります。

動作指示コマンドには、*delete*、*getdelete*、*getupdate*の三種類があり、それぞれ以下のような働きをします。

	コマンド	コマンドの意味	動作指示コマンドの意味
1	*delete*	1レコード削除	所蔵 ID を検索キーとして、所蔵レコードの削除を実行する。
2	*getdelete*	一括削除	検索された所蔵レコードをファイル出力し、所蔵 ID を検索キーとした削除指示レコードを生成する。
3	*getupdate*	一括更新	検索された所蔵レコードをファイル出力し、同時に更新用レコードを生成する。

CATP-Auto では、指定した検索キーによって所蔵レコードが 1 件ヒットした場合にのみ、実際の削除・更新を行います。一括処理の場合は、まずアップロードファイルで指定した検索キーにより、総合目録データベースの検索を行って、一括処理前保存ファイルを出力し、再度このファイルを CATP-Auto で実行することにより、実際の削除・更新を行うという 2 段階の処理になります。詳細は、第 5 章を参照してください。

(例 5) *delete* ID:CA0000065473 (1レコード削除)

(例 6) *getdelete* LOC;図 (一括削除レコード取り込み)

(例 7) *getupdate* LOC;図 LOC=理工 (一括更新用レコード取り込み)

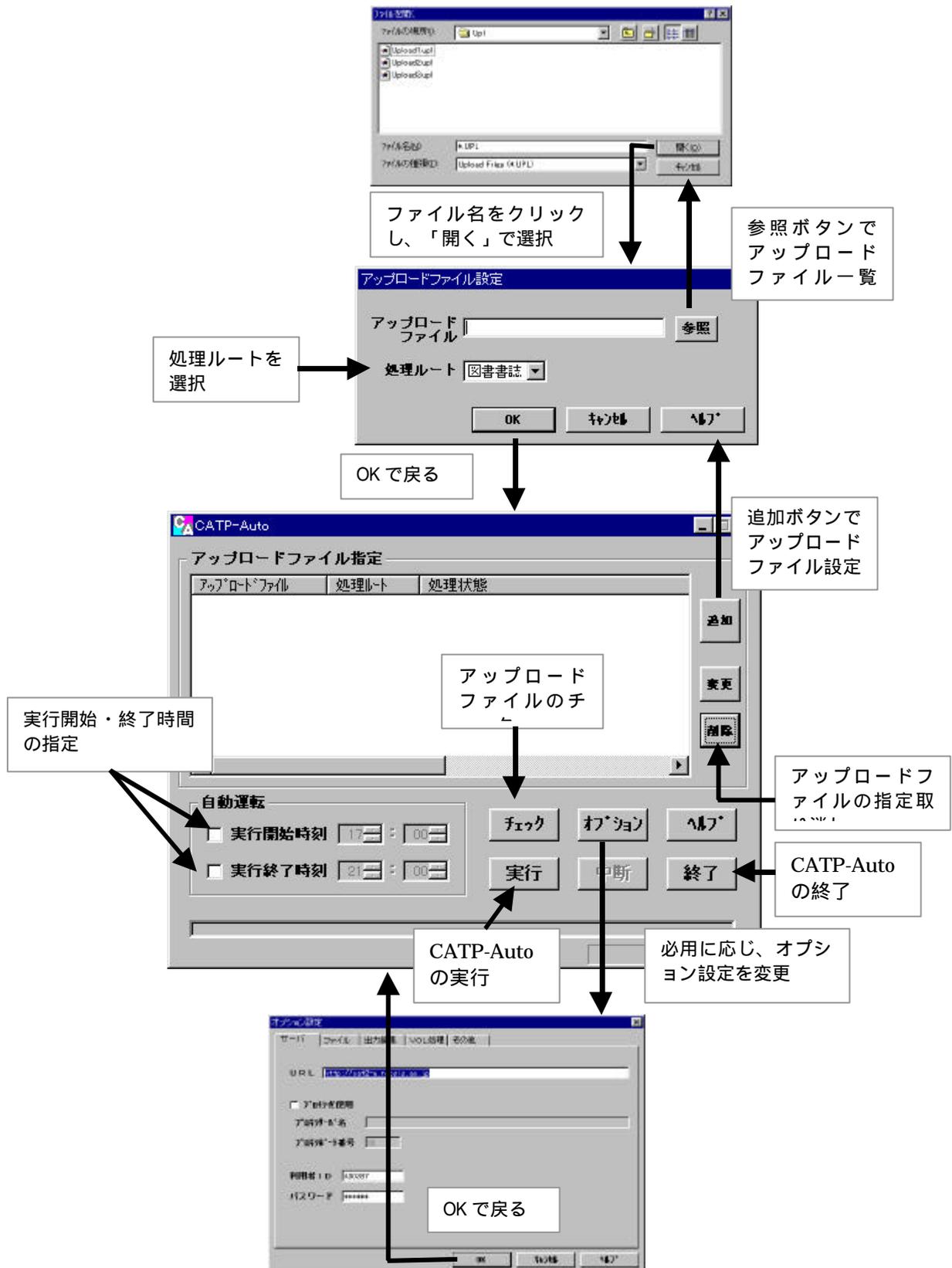
(4) コメント行

行の先頭が/* ...で始まる行はコメント行とみなされ、処理対象となりません。また、タブの後に、/* ...を書くと、データ行にもコメントを入れることができます。

(例 8) /* この行はコメント行です。

3.3 CATP-Auto の操作の流れ

CATP-Auto の各画面と操作の関連は、次の図のようになります。



(1) CATP-Auto の制御画面

CATP-Auto を起動すると、下の画面が表示されます。この画面が、CATP-Auto の実行をコントロールするメインの画面です。

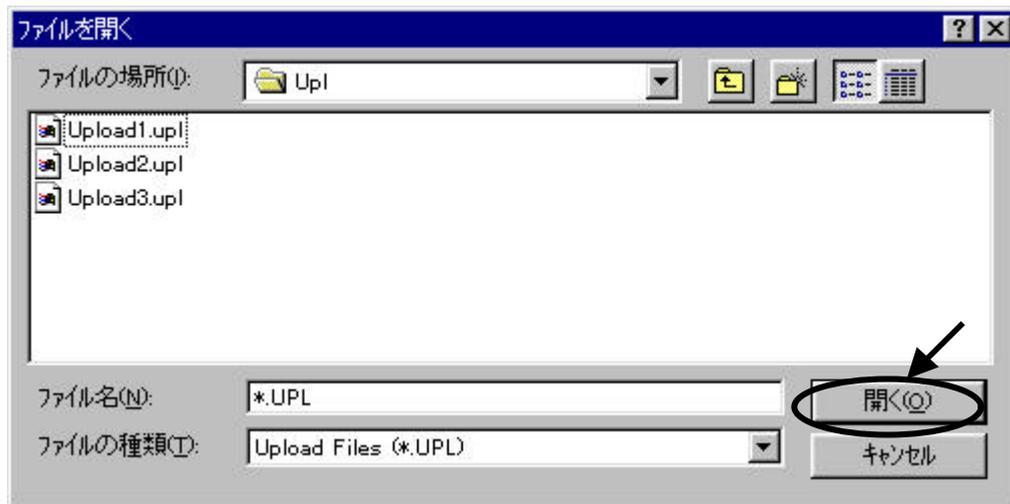


この画面では、まずはじめに、「2.2 アップロードファイルの入力規則」で示したルールに従ってあらかじめ作成しておいたアップロードファイルの登録を行います。「追加」ボタンを押すと、下の「アップロードファイル設定ウィンドウ」が表示されます。

(2) アップロードファイルの追加・削除

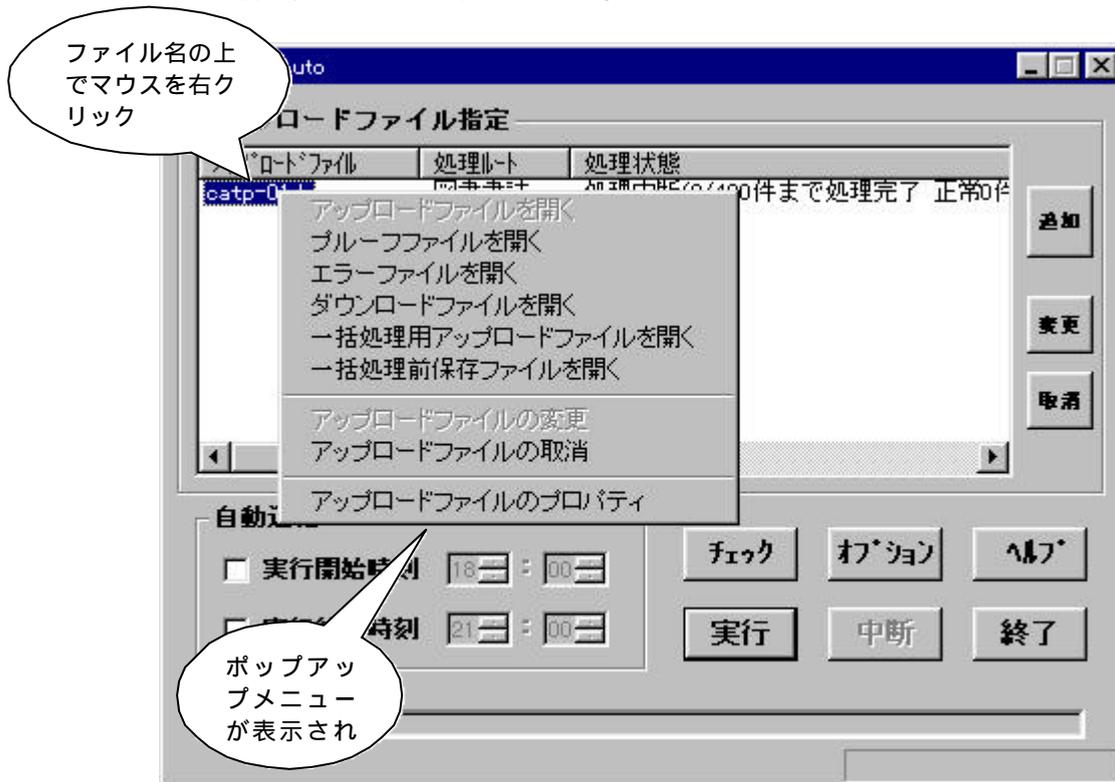


「参照」ボタンを押すと、オプションの「ファイル設定画面」で指定したディレクトリのファイル一覧が表示されますので、処理対象とするアップロードファイルをクリックして選択し、「開く」ボタンを押してください。



次に、「処理ルート」のプルダウンメニューで、アップロードファイルが図書か雑誌か、書誌検索の後に所蔵登録を行うのか（「書誌ルート」）、直接所蔵レコードを操作するのか（「所蔵ルート」）によって、「図書書誌」、「図書所蔵」、「雑誌書誌」、「雑誌所蔵」の中から該当する処理を選択します。「OK」ボタンを押すと、もとのメイン画面に戻り、選択したファイルのファイル名、処理ルート、処理状態が表示されます。

この段階では、処理状態は、「未処理」となっています。アップロードファイルは、複数登録する場合は、この処理を繰り返します。



なお、この画面でアップロードファイル名表示されている部分にカーソルを置き、右クリックすると、ポップアップメニューが表示され、アップロードファイルやエラーファイル、プルーフファイル等をオプション設定画面で登録したエディタで開いたり、アップロードファイルを変更、削除したりすることができます。

(3) アップロードファイルのエラーチェック

アップロードファイルの登録が終了したら、ファイル内容のエラーチェックを行います。登録したファイル名をクリックして選択し、「チェック」ボタンを押すと、アップロードファイルの形式チェックを行い、結果が処理状態の欄に表示されます。この段階でエラーが表示された場合は、アップロードファイルの内容にエラーがありますので、ファイル内容のチェックを行い、エラーデータを修正してください。



(4) 実行開始時刻・終了時刻の指定

自動運転の実行開始時刻、終了時刻を指定したい場合は、CATP-Auto 制御画面の実行開始時刻、終了時刻のチェックボックスをチェックし、それぞれの時間を設定しておく、指定した時間に処理を開始・終了することができます。

(5) 処理の実行・中断・終了

アップロードファイルを登録し、「実行」ボタンを押すと、自動運転が開始されます。実行開始時刻、終了時刻を指定している場合は、待機状態になり、指定した時刻になると処理を開始、終了します。処理経過は、制御画面の最下部に表示され、処理が完了すると、処理結果が「処理状態」の欄に表示されます。

なお、自動運転の途中で処理を中断したい場合は、「中断」ボタンを押すと、処理を中断した部分がブックマーク(栞)として記憶され、次に自動運転を開始した場合、中断箇所から処理が再開されます。終了時刻を指定し、ファイルの途中で処理が終了した場合も、同様にブックマークが挿入されます。